

## 第1回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年6月13日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
○地方創生 まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画はどのような関係にあるのか。	坂本委員	まち・ひと・しごと創生総合戦略は、総合計画と並行し、総合計画の中から人口減少対策を抜粋して策定。次の総合戦略をつくるかどうか検討中。	(総合計画と整合を図り、2019年度中に次期総合戦略を策定する。)
○観光政策 ・熊本にどのくらいの訪日外国人が入っていて、その人たちがどこで何をやっているのかというデータがほとんどない。ラグビー、ハンドボールを控えていながら、現状がわかっていない。 ・どこに何をどう投下をすると、訪日観光客の観光消費額を上げることににつながるのか、今後、訪日外国人、欧米豪を狙った海外展開に関して具体的に詰めていくべき。	小林委員	現在、現状分析をしており、それを総合計画の中で反映させていく。	基本計画P75【第6章第2節(1)】 ウ アジア、欧米、国内など、地域ごとに観光客の関心分野を調査・分析し、その結果を基に戦略的な誘致活動を行います。  基本計画P76【第6章第2節(2)】 ア 観光客の滞在時間延長による観光消費額の増加に向け、日本文化や自然を体験するコンテンツを充実させます。 イ 観光案内所の充実や、多言語対応、トイレの洋式化、キャッシュレス化、無料Wi-Fi環境などの整備に取り組みます。 ウ 熊本城と水前寺江津湖公園においてこれらの取組を重点的にを行い、外国人も含めた観光客の利便性向上を図ります。
・観光消費額を上げるために、外から引っ張ってくるよりも、既にあふれている国内の外国人を、九州に上陸させ熊本で時間とお金を使ってもらう仕組みの構築が重要。 ・既に上陸している人たちの行動パターンと、このラグビーで熊本に来る(今まで全く熊本に興味がなかった)人たちから、積極的にデータを収集することが重要。今後の訪日観光戦略を考える上で、その辺を集中して考えることを折り込んだほうがいい。	小林委員	今後、訪日外国人、特に欧米豪を意識して行動形態をつかむ必要がある。Wi-Fi等を利用しながら行動パターンを把握、検証して、戦略的な誘致活動を検討していく。この計画の中で具体的な施策事業に落とししていきたい。	
○高齢者の事故対策 高齢者ドライバーが関わる痛ましい交通事故が起こっている。これは、色んな分野に関わってくる。具体的には、免許を返納といっても、公共交通が無い地域だと返納できない。健康ポイントにもつながるので、高齢者の交通事故を減らすために、色んな事が関わってくることをうまく書けたら総合計画的になる。	円山委員	交通手段の確保、返納者に対するインセンティブ、健康のインセンティブなどをトータルに考え、計画の中で盛り込んでいきたい。自動運転も含めて、高齢者の車の問題に取り組んでいきたい。	基本計画P26【第2章第2節(1)】 ア 警察や地域の交通安全協会などと連携し、子どもや高齢者を対象とする交通安全教室や中高生自転車安全教室を開催するとともに、高齢者の運転免許返納制度についての広報・啓発に努めるなど市民の交通安全意識の啓発を図ります。  基本計画P41【第3章第3節(2)】 ウ 高齢者がいつまでも安心して自立した生活を送ることができるよう、介護保険サービスにおける自立支援・重度化防止に向けた取組を強化するほか、ひとり暮らし高齢者などへの福祉サービスを適切に提供するとともに、地域や民間事業者などと連携した支援を推進します。
○公共交通機関の整備 熊本の場合、公共交通機関が貧弱で高齢者の人が使いにくく、公共交通機関から離れたところ、本数が少ないところの方は車が手放せない。それが、高齢者の事故にも結びつきやすいので、まずは公共交通機関の整備、円滑に運行できる路面の確保を今後検討しなければならない。	中山委員長	—	基本計画P94【第8章第3節(1)】 ア 公共交通ネットワークの維持・確保に係る民間事業者への支援をはじめ、バス事業者と連携し路線網の再編や運行体制の効率化を進めることにより、持続可能な公共交通網の形成を目指します。 エ 公共交通の利用が困難な公共交通空白地域などへのコミュニティ交通の導入支援に加え、AIなどの新技術を活用し、地域の実情に応じた新たなコミュニティ交通の導入検討を進めます。  基本計画P94【第8章第3節(3)】 ア 市民などに対して、自家用車から公共交通機関への利用転換を促進します。 イ 年齢層や居住地域など公共交通の利用特性に応じたモビリティマネジメントを展開し、自家用車から公共交通機関への利用転換を促進します。 ウ MaaSなどの新たなモビリティサービスの展開を見据え、公共交通のシームレス化に向けたICTの導入支援などに努めます。

## 第1回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年6月13日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
○カウンセリングが必要な児童数 震災復興計画をどう総合計画の中に溶け込ませていくか、これから復興をどう見守っていくかが重要。 カウンセリングが必要な児童数が、未だ874人、新規316人と、復興がある程度進められている中で、高い数字が残っており非常に気になる。どう現状を分析されているのか。	木村委員	数字が全て震災に起因するかどうかは、はっきりと出てきていないが、時間がたつて出てくることもあるので、今、原因分析をしており、しっかりと取り組んでいく。	基本計画P12【IV編-1】 ウ 心のケア 心の健康の確保に向けた一人ひとりの状況にあわせた支援、カウンセリングが必要な児童生徒へのケア など
カウンセリングを受けた人数は、学校でカウンセリングを受けた児童全員か、それとも、カウンセリングを受けた中で震災に影響を受けた児童が、この数字として出てきているのか。	中山委員長		
当然、震災に関するカウンセリングと思っていたが、カウンセリングを受けたというだけで、何の理由で受けたかはわかっていないということか。まだ分析は終わっていないのか。	宮村委員		
震災前の数値(27年度)が示されているとわかりやすかった。震災では、子供、老人、女性というのが一番影響を受けているので、今後の経過を把握いただきたい。	中山委員長		
○震災を機に顕在化した普遍的課題への対応 ・地震をきっかけに子供やお年寄りの課題など、非常に弱いところが浮き彫りになっており、普遍化した課題が含まれている。これを細かく分析すると、それを総合計画の中に具体的に織り込むことができる。 ・地域のお年寄りの運動が減っているとか、逆に増え健康になっているなど、市内にたくさん事例があるので、市職員が関わった事例を拾い上げて、この計画見直しに繋げていければいい。	木村委員	—	基本計画P12【IV熊本地震からの復旧復興】 1 被災者の生活再建に向けたトータルケア 被災者が安心して自立的な暮らしを送ることができるよう生活再建に向けた総合的な支援に取り組みます。 ア 切れ目のない健康・生活再建支援 恒久住宅の確保に向けた支援、再建後の孤立や健康悪化を防止するための見守りやコミュニティ形成支援、生活困窮者への支援 など
○外国人との共生 4年前に比べて、人手不足は地域でも問題になり、外国人労働の問題がクローズアップされている。労働力としての外国人、あるいは住まわれる外国人とどう向き合い、一緒に暮らしていくかが、新たな課題になっていく。4年前とは状況が変わっているので、見直しの中心的課題に、この課題が出てくるのではないか。	坂本委員	外国人労働者の入管難民法が改正され、今後の増加が予想される。本市では、ワンストップ窓口を国際交流会館に置き、相談窓口を強化する。総合計画の中にも、外国人が増えることを想定して取り組んでいく。	基本計画P72【第6章第1節(7)】 ア 若年者などの就業機会拡大人材定着や、外国人材の活躍を推進するを図るため、求人企業とのマッチングやUIJターンの促進に重点的に取り組みます。 基本計画P128【VIII編-第7節(2)】 ア 在留外国人などのニーズや課題を踏まえ、関係団体との連携による細やかな対応と総合的な支援を行うことによって、多文化共生社会の実現を推進します。
○農業生産額の検証値の考え方 農業生産額の出荷額が平成27年から上昇傾向にあるが、震災後から生産に関わる経費が非常に多くかかっている。本当に競争力の高い持続的なことであれば、農家の収入、経費も含めた中で検証していく必要がある。	井上委員	農業算出額と1戸当たりの出荷額は総収入であり、資材等も高騰しており、その中身は、後期計画の中で分析する。	(ご意見を踏まえ後期計画の中で分析する)

## 第1回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年6月13日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
○地域を挙げての児童の見守り、防犯体制 先日の川崎の事件(川崎殺傷事件)を受け、保護者の関心や不安が高まっているが、保護者は、地域を挙げての見守り、防犯を期待している。総合計画の方向性の中にも、その辺は組み込まれているのか。	松島委員	地域へ出向き交通安全の教室や、県警と協力して運転免許証の返納等も、自治会等で資料の配布等も行っている。今後、後期計画を作成する中でも、そういう視点も入れていく。	基本計画P26【第2章第2節(2)】 ア 各防犯関係機関と連携し、防犯パトロールや中心繁華街における客引き行為対策などを実施するとともに、防犯協会などへの活動支援を行います。さらに、防犯灯・カメラ付き防犯灯の整備支援により地域防犯の強化を図ります。
○多様性を認め合える共生社会の実現 男女共同参画社会の実現の中で、性的マイノリティへの理解促進が書かれているが、今後本市にお住まいの方たちに対し、婚姻届出の部分などを含め、どのように取り組んでいくのか。「多様性を認め合える共生社会の実現」のような文言を、使っていただければいい。	相藤委員	パートナーシップの宣誓制度を創設したところであり、セミナー開催やリーフレット配布等、各種啓発を実施する。また、当事者の方や支援団体との意見交換会や生きづらさの解消に向けた支援等も実施していく。	基本計画P21【第1章第2節(2)】 ク 性的マイノリティに対する市民の理解促進に向けた啓発や、当事者が抱える生活上の困難の解消に向けた支援に取り組みます。
○児童虐待と父親の育児参加 人口減少を食い止めるためには、子供たちを増やすことが大事だが、最近、児童虐待が多数発生し、大切な子供が亡くなっていく。ワークライフバランスのときの父親の役割も必要だが、熊本市は育児休業の義務化をどう考えているのか。男性が育児休業をとることをどう考えているのか。	相藤委員	職員の育児休業及び育児休暇は、男性職員にも取得するよう積極的に呼びかけている。各家庭の事情もあり、義務化はできないが、男女ともに子育てに参画するよう働きかける。	基本計画P48【第3章第5節(6)】 ア 子育てしやすい職場環境の整備促進を支援します。  基本計画P123【Ⅶ編第4節(3)】 ア 職員の安全と健康を確保するとともに、風通しがよく仕事と生活を両立しやすい職場風土の形成や環境整備に取り組みます。 エ 職員が子育てしながら仕事ができるように保育環境を整備し、市役所内の子育て支援を積極的に推進します。
○待機児童対策 私たちの職場にも、子供を預けられないから職場への復帰ができない女性職員がおり、雇用創出にもつながる待機児童対策は重要な課題と考える。	井上委員	数年間は待機児童ゼロだったが、今年度は数名出ている。小規模や企業主導型保育などニーズに応じ整備しており、保育士の人材不足への対策も進めていく。	基本計画P48【第3章第5節(4)】 ア 待機児童の解消に向け、保育の量の拡充とともに、それを支える保育士の確保と処遇の改善を図ります。
○SDGs 地震で出てきた様々な課題はSDGsの中に含まれてくるので、総合計画の中に具体的に落とし込んでいくべき。市として、SDGsにどう向き合っていくのか。SDGsを市民が理解して、市全体で取り組んでいけるような形を、わかりやすく落とし込んでいければいい。	木村委員		
SDGsに関しては、熊本には世界に誇る水があり、水会議も控えており、環境都市として、もっと具体的に世界に向けて発信していけたらいい。上質な熊本の環境をつくることにもなるし、交通や観光、農業を考えると、色んなところに絡み合いがある。今後数年間は、人の動きが活発になるので、これを機に、来る人も、住む人も、両方に負担がなくハッピーになるまちにするためにどうしたらいいか、全局挙げて考えていただきたい。	小林委員	SDGsの理念は、誰一人取り残さないというような包摂性、多様性であり、本市が目指している「上質な生活都市」に相通するもの。総合計画の全ての施策事業に、この理念をベースに置いて検討していく。	基本計画P129【Ⅷ編-第8節】 「SDGs未来都市」として、自治体SDGsモデル事業をはじめ他の自治体の普及展開につながる先導的な事業を推進し、SDGsの認知度向上へ向けた広報や啓発活動などについて節(施策)を新たに設けた。  【基本計画-全般】 基本構想に掲げる「上質な生活都市」の実現はもとより、SDGsの実現にも意識して取り組むため、基本計画の節(施策)ごとに関連するSDGsのロゴマークを追記。
○SDGs SDGsの17ゴールと復興計画を対応表で整理した場合に、ずれている部分や薄い部分が出てくる。SDGsは、国家レベルでやることも書かれているので、熊本市で出来ることを整理をすべき。	円山委員		

## 第 1 回 熊本市第 7 次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年6月13日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
<p>○県内全体をけん引するリーダー都市 熊本市は、網羅され充実した行政サービスがあり、人口ビジョンも優等生の水準を保っているが、県内各市町村は人口が激減し、熊本市を目指して移住する状況にある。熊本市は人口のダム機能だけではなく、人を増やして各地域に人が散っていくぐらいの、もっとすばらしい都市に発展できる。熊本市が県を支えているという、連携中枢都市圏だけではなく県内全てのリーダーとなっていきたい。</p>	坂本委員	-	<p>基本計画P7【Ⅱ都市整備の方針】 (2) 中心市街地は、県内のみならず九州の中心都市にふさわしい市域はもとより県全域の持続的発展をけん引するため、行政、金融、情報通信及び教育文化など高次の都市機能の維持・集積を目指します。</p> <p>基本計画P75【第6章第2節(1)】 エ 県や熊本連携中枢都市圏の市町村、さらには九州内の各都市と連携し、効果的な誘致活動を行います。</p> <p>基本計画P126【Ⅷ編-第6節(1)】 ア 近隣市町村と連携しながら、「熊本連携中枢都市圏」の取組を拡大し、経済の成長、都市機能の強化、住民の利便性の向上を図っていきます。</p>
<p>○市民の役割や責任の明確化 基本理念のところで、市民と行政がそれぞれ果たすべき責任や役割を分担しと書いてあるので、市民の役割や責任をもっと打ち出したほうがいい。</p>	坂本委員	-	<p>基本計画P2【Ⅰ計画の前提】 (3) 実施主体 本計画は、市が主な実施主体となるほか、市民(地域団体、民間事業者、NPOなどを含む。)と行政が相互に連携しながら実施していきます。</p> <p>基本計画P113【Ⅵ危機管理 第3節】 自助・共助・公助の役割分担を明記</p>
<p>○交通の安全性の向上 交通の利便性向上とあるが、今のところ非常に事故が多発しているので、安全性の向上も一緒に取り組んでいければと思う。</p>	松島委員	-	<p>基本計画P26【第2章第2節(1)】 ア 警察や地域の交通安全協会などと連携し、子どもや高齢者を対象とする交通安全教室や中高生自転車安全教室を開催するとともに、高齢者の運転免許返納制度についての広報・啓発に努めるなど市民の交通安全意識の啓発を図ります。</p> <p>P96【第8章第4節(2)】 ウ 事故危険箇所対策や通学路合同点検などを実施することで、安全安心な交通環境の確保に努めます。</p>
<p>○交通の利便性向上 交通の利便性の向上に関して、MaaSや自動運転とか、これからの10年、20年で一気に交通が変わっていく可能性がある。</p>	円山委員	-	<p>基本計画P94【第8章第3節(3)】 ア 市民などに対して、自家用車から公共交通機関への利用転換を促進します。年齢層や居住地域など公共交通の利用特性に応じたモビリティマネジメントを展開し、自家用車から公共交通機関への利用転換を促進します。 ウ MaaSなどの新たなモビリティサービスの展開を見据え、公共交通のシームレス化に向けたICTの導入支援などに努めます。</p>

## 第1回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年6月13日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
<p>○人生100年時代を見据えた医療介護 重点の③健康寿命の延伸で、健康づくりはとても大事なこと。人生100年時代を見据えた健康介護ケアとあるが、在宅医療がメインになってきて、今は病院で死ねないという時代が変わってきている。「自らの価値観により選択できる地域包括ケアモデルを構築する。」とあるが、これとはほど遠い状態が今後来る。非常に悲惨な状態を我々は予測しており、どう対応していくか我々として苦しい思いをしていくと思う。</p>	宮村委員	-	<p>基本計画P37【第3章第2節 現状と課題】 今後は、持続可能な救急医療体制の確保に努めるとともに、病床機能の分化・連携に係る医療機関の役割の明確化や機能の転換などに関して、県や医師会等の関係者と協力して進めていく必要があります。</p> <p>基本計画P41【第3章第3節(2)】 ア 医療・介護専門職など職種間の連携強化を図り、在宅医療・介護サービス体制の構築を進めます。 ウ 高齢者がいつまでも安心して自立した生活を送ることができるよう、介護保険サービスにおける自立支援・重度化防止に向けた取組を強化するほか、ひとり暮らし高齢者などへの福祉サービスを適切に提供するとともに、地域や民間事業者などと連携した支援を推進します。</p>
<p>○がん検診の完全無料化 がん検診の完全無料化はとてもいいことだが、全て無料化にはなっていない。熊本市は、指定都市の中で受診率が低いので、受診勧奨が必要であり、無料クーポンを出す上上がる。特定健診も同じで色々検討されているが、内容がもう一つよろしくない部分もあるので、医師会としっかり検討していただきたい。</p>	宮村委員	-	<p>基本計画P36【第3章第1節(4)】 ア 検診の必要性、早期発見・早期治療の重要性の啓発をさらに強化するとともに、受診しやすい検診体制づくりに努め、受診率向上を図ります。</p>
<p>○子ども医療費助成の拡充 子供を産みたい熊本市になってほしい。幼児の医療費が、中学生まで定額になり前進だと思う。もうちょっと伸ばしていけると、人口が流入してくると思う。</p>	宮村委員	-	<p>基本計画P48【第3章第5節(5)】 ア 児童手当や子ども医療費の助成など経済的支援を行います。</p>
<p>○妊婦加算への対応 妊婦加算が復活する様相がある。妊婦加算自体は問題があると思うが、栃木や茨城など妊産婦の医療費を助成を行っている県もあり、何か対応していけたらいい。</p>	宮村委員	-	<p>基本計画P47【第3章第5節(1)】 イ 妊娠や不妊などの相談・支援を行います。</p>
<p>○企業誘致による雇用創出 市民所得の向上と雇用の創出に関して、私の周りの友人も、熊本県で就職したくても職種が余り無く、県外に目を向けるしかない人も多くいる。企業誘致をどんどん進め、幅広く選べる環境をつくっていただけたら、熊本に留まる人も多くなっていく。</p>	吉本委員	-	<p>基本計画P72【第6章第1節(5)】 ア 本市の優遇制度や立地環境などをPRし、積極的に企業誘致に取り組みます。 イ 産業用地整備に向けて候補地や事業手法などについて検討を行います。</p>
<p>○復興計画の総合計画への位置づけ 復興計画を総合計画に位置づけ直していくときに、総合計画をどこに位置付けたかを明確にし、引き続きしっかり取り組んでいただきたい。それ以外の施策においても、潜在化していた問題を震災が気づかせてくれたという視点で、もう一度、行政運営や政策をチェックし直して、総合計画にどう生かすかという議論を庁内でやっていただきたい。</p>	鈴木副委員長	-	<p>基本計画P12【IV 熊本地震からの復旧復興】 1 被災者の生活再建に向けたトータルケア 2 防災・減災のまちづくり 3 熊本地震の記録と記憶の伝承</p> <p>基本計画P108【VII 危機管理】 第1節 都市基盤や防災拠点施設の強靱化 第2節 危機管理の段階に応じた対応 第3節 自助・共助・公助の役割分担による防災力の向上</p>

## 第1回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年6月13日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
○いろいろな立場に配慮した総合計画の見える化 復興についていけない、取り残された方々、そういう意識を持っておられる方々から見て、総合計画がしっかり目配りをしていることがわかるように、例えば、SDGsのようにいろんなマークで、この視点から見れば、総合計画のここが、あなたにとっての総合計画ですよと見えるように表記いただきたい。	鈴木 副委員長	-	基本計画【基本計画-全般】 基本構想に掲げる「上質な生活都市」の実現はもとより、SDGsの実現にも意識して取り組むため、基本計画の章(分野別施策)ごとに関連するSDGsのロゴマークを追記。 (市民周知向けガイドブックにおいて見せ方の工夫を行う)
○総合計画を推進する体制の検討 市役所改革と絡んでくるが、この計画をつくる時に、市役所の組織と機能分担を同時並行的に考えていく必要がある。例えば、新庁舎の問題で、聞こえてくる議論は建物の話ばかりだが、建物は、仕事や機能分担が明確でないと、必要な容積や面積がわからない。この総合計画は何をするかという話であって、どうやって実現するかという話とセットで考えなければならない。	鈴木 副委員長	-	基本計画P121【Ⅶ 第3節(2)】 ア トップマネジメントや政策立案・調整機能に資する組織の設置や施策の管理機能を強化する体制をつくり、対応に急を要する案件に対しては、組織横断的なプロジェクトを設置するなど、柔軟な体制による迅速な対応を図ります。 イ 総合計画に掲げる施策体系に沿った体制を基本に組織を構築し、各分野の事業やまちづくりの重点的取組などを円滑に推進します。
○高齢者の地域での見守り 高齢化社会を迎え、ドラッカーも言っているとおり、「すでに起こった未来」が来ており、それにどう対処するかは、大きな1つの課題。熊本市という大都市になると、お年寄りが静かに亡くなっていたというのが今後出てくる気がしている。熊本市は、コミュニティーがしっかりしている地域だが、その中で独居老人などをどうケアしていくか、お互いに見守りでやるのか、熊本市で組織をつくって見守りをやるのか、今後検討していただきたい。	中山 委員長	-	基本計画P41【第3章第3節(2)】 ウ 高齢者がいつまでも安心して自立した生活を送ることができるよう、介護保険サービスにおける自立支援・重度化防止に向けた取組を強化するほか、ひとり暮らし高齢者などへの福祉サービスを適切に提供するとともに、地域や民間事業者などと連携した支援を推進します。
○熊本型のスマートシティ 非常に不確定な未来社会が待っており、これに対応するため後期計画の中でどうやっていくのか、Society5.0ということではなくて、AIやIoTを使ってどう市民の生活を守り、市民が楽しく有意義な生活が送れるようにできるのかという視点で、熊本のスマートシティを考えていただきたい。	中山 委員長	-	基本計画P94【第8章第3節(3)】 ウ MaaSなどの新たなモビリティサービスの展開を見据え、公共交通のシームレス化に向けたICTの導入支援などに努めます。  基本計画P120【Ⅶ 第2節(4)】 ア AI、RPA、クラウドシステムといった先端技術の積極的な導入により、行政運営の効率化を図ります。
○復興需要後の景気剥落への対応 神戸、東北地方は震災後に経済が低迷しており、もうそろそろ熊本も経済が低迷する時期に入ってきており、それに熊本市としてどう政策を立てて対処していくのか、次の計画の中に盛り込んでいただきたい。	中山 委員長	-	基本計画P69【第6章】 復興需要の収束に伴う経済活動の縮小が懸念されており、地域経済を持続的に発展させていくためには、地場企業はもとより、今後成長が見込まれる産業分野の振興や、創業支援や企業誘致などによる雇用の場と人材を確保する必要があります。  基本計画P72【第6章第1節(1)】 ア 食品、医療・介護・健康、環境、クリエイティブの各産業で、産学官連携などによる企業の技術革新、新分野進出などを促進します。  基本計画P72【第6章第1節(2)】 ア くまもと森都心プラザ内ビジネス支援センターの機能向上を図り、創業支援や事業承継、経営改善などを支援することで、中小・小規模企業の経営基盤の強化に取り組めます。また、商工会議所・商工会をはじめとした関係機関との連携を図ります。  基本計画P72【第6章第1節(8)】 ア 若年者などの就業機会拡大熊本市外からの人材還流を図るため、求人企業とのマッチングやUIJターンの促進などの移住就業促進に重点的に取り組みます。

## 第2回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年8月8日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
<p>スマートシティの定義がぼやっと書いてあるような気がする。この文章中にあるSociety5.0とスマートシティとは等しいようで等しくないの、新しい概念を入れるときには、その意味をきちんと説明できることが大切なので、それがわかるような表現にしていだけきたい。きちんと説明できるかどうか、この構想が実際に具体的に政策に落とし込めるかどうかにも関わってくる。</p> <p>交通のベストミックスは、公共交通と自動車交通の適切な役割分担と思っているが、そのような説明があった方が良くと思う。また、ベストミックスによる最適化という二重の表現は、少し工夫したら良いと思う。</p>	円山委員	<p>ご指摘のとおりスマートシティ、ベストミックスの言わんとするところをしっかりと表現は書き直させていただきたい。特に、どうしても固有名詞でカタカナを使わざるを得ないところは、別途それを説明するなど工夫させていただきたい。</p>	<p>基本構想 P8 ○スマートシティについて 以下の注釈を追記 スマートシティ：都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区</p> <p>○ベストミックスについて 以下の表現に修正 公共交通と自動車交通のベストミックス ➡ 公共交通と自動車交通の最適な組み合わせ</p>
<p>前回も外国人の問題が今回の見直しの中心課題になるとお聞きしたが、今回の基本構想は余り変わっていないような気がする。例えば、交流人口の話にしても、インバウンドとして外国人が非常に取り上げられるし、労働力の話の中でも、一緒に住み続けているというような話としても検討していかなければならないと思う。17ページのところで、外国人など幅広い人材が活躍できる環境整備という表現が入っているが、全体的にこの辺に外国人の問題を意識して入れたというところがあれば教えていただきたい。</p> <p>熊本に住まわれる外国人とともに生活していくという意味で、人権問題とか、そういうところで、前回何か書き込まれていたと思うが、インバウンドとして来られる方々に対応する、誰でもが観光客として来て、ここで熊本を楽しんで帰れるようなという意味での対応、それと、経済界としても労働力不足に対応するために多くの外国人が来てほしいと思っている。そういうところが入っていればいいなという気がする。</p>	坂本委員	<p>17ページの経済の発展と熊本の魅力の創造・発信の中で、外国人など幅広い人材が活躍できる環境の整備というところは、新しく入れたところだが、外国人だけでなく共生社会ということで、ご意見を踏まえて記載を考えたい。</p>	<p>基本計画P72【第6章第1節(7)】 ア 若年者などの就業機会拡大人材定着や、外国人材の活躍を推進するを図るため、求人企業とのマッチングやUIJターンの促進に重点的に取り組みます。</p> <p>基本計画P128【Ⅷ第7節】 「国際社会に対応した取組の推進」 国際的な視点を踏まえた取組は、全ての施策に関わるため、第6章第2節の国際交流に関する取組を、「Ⅷ 総合計画を推進するために」に集約。 内容は、改正入管難民法施行に伴う新たな在留資格の創設及びくまもと都市戦略会議における「外国人とともに発展する熊本宣言」等の時代潮流を踏まえ、以下の4つの主な取組に分けて追記した。</p>
<p>外国人労働者のことで、全体的にどの分野も人手不足は深刻になっていくと思う。高齢化の中で、絶対に問題になるのは、在宅医療、高齢者医療、介護であり、この分野の人手不足は、極めて深刻だと思う。この深刻な労働者不足、特に医療に関する高齢化対策は、先が見えないぐらい深刻であり、外国人労働者は、我々も考えていく必要がある。</p> <p>その中でも、安心して本当に働きに来てもらえる環境、我々も安心して受け入れる環境を熊本市が国際都市として作り、現地でノウハウはきちんと教えて、そして、こちらに来ていただくということを今後期待していきたいと思う。</p>	宮村委員		<p>(1)戦略的な海外との交流・連携の推進 (2)国際的取組の推進とグローバル人材の育成 (3)産学官での外国人の受入環境の充実 (4)多文化共生のまちづくり</p>
<p>熊本市がこれから世界とどうつながっていくかという部分の記述が弱いような気がする。前回もそういった指摘があったときに、国際交流会館でワンストップで対応するという説明はあったのですが、桜町再開発等で大きなコンベンションを持っていたり、あるいは熊本港や空港を介しながら世界とどうやってつながっていくかという部分について、熊本市としてのスタンスが見えない気はする。そういうところをご検討いただければと思う。</p>	中山委員長		

## 第2回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年8月8日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
<p>法律でも、外国人が日本には来たが、なかなか日本語ができないということで、非常に大きな課題になっている。これは、令和元年の最初の法律として、日本語学校の問題も踏まえてできた法律であるが、現実に、日本語教育のシステムとして、きっちり続けていくことが、国際都市とか、自治体の取り組みとして重要になってくる。</p> <p>そういう意味で法律の中でも、労働力として、実際に日本語ができことで生産性も上がっていくし、まず住みよい熊本で、一緒に暮らしていくという意味でも、非常に重要だと思う。</p> <p>そういう外国人の日本語水準のアップとか、これは具体的に市としてもこれから考えていくべき話と思う。こういう制度がつくられる中で、より具体的に織り込んで、総合計画というのは外にも向かう話なので、熊本というのは外国の人にも門戸を開いていることをわかってもらえるようなものを計画の中にも取り込めればと思う。</p>	木村委員	/	<p>基本計画P128【Ⅷ第7節】 「国際社会に対応した取組の推進」 国際的な視点を踏まえた取組は、全ての施策に関わるため、第6章第2節の国際交流に関する取組を、「Ⅷ 総合計画を推進するために」に集約。 内容は、改正入管難民法施行に伴う新たな在留資格の創設及びくまもと都市戦略会議における「外国人とともに発展する熊本宣言」等の時代潮流を踏まえ、以下の4つの主な取組に分けて追記した。</p> <p>(1)戦略的な海外との交流・連携の推進 (2)国際的取組の推進とグローバル人材の育成 (3)産学官での外国人の受入環境の充実 (4)多文化共生のまちづくり</p> <p>※交流人口（インバウンド対策）に関しては、引き続き、第6章2節「交流人口の増加」にて位置づけるもの。</p>
<p>熊本市は、国際都市としての何かまちづくりを宣言するところまでは必要ないかもしれないが、政令指定都市でもあるので、国際都市というか、そういった記述があったほうが、今は何しろ復旧復興という震災からの脱却が中心になっているので、どうしても内側の問題がクローズアップされるが、後期計画の中には、今後4年間、そしてその先を考えると、国際都市としてどう機能していくかというのは避けられない部分でもあるので、その辺のことは検討いただければと思う。</p>	中山委員長		
<p>先ほどの構想の議論のところ、外国人の話が出ていたので、それが反映された形で基本計画も修正されるのか。</p>	円山委員		
<p>（資料2）10ページのめざすまちの姿で、「だれもが安心して暮らせる災害に強いまち」で、これで最後になっているのですが、安心して暮らせるというのが、災害に強いまち、当然、災害に強くないと安心して暮らせないので、他の色んな計画を見てみると、安心という言葉が、例えば安心して産み育てるような社会環境であるとか、必ずしも災害に強いという言葉で全部が集約できるわけでもないと思う。</p> <p>このめざすまちの姿というのは、非常にどこまで抽象的な表現にするかというのは、とても難しいところですが、その辺のところの表現を、もう一回練り直してみたらどうか。</p>	鈴木副委員長	<p>副委員長のご指摘のとおり、災害に強いというのが安心して暮らせるというまちの一つのファクターとして捉えられるように表現を修正したい。</p> <p>今回の中間見直しのベースの考え方としては、基本構想の骨となる部分は変えずに、地震で顕在化した問題、外国人やSociety5.0の問題などの新しい問題を加筆するというスタンスで見直しを進めていきたい。</p>	<p>基本構想 P10【Ⅲめざすまちの姿】 「だれもが安心して暮らせる 災害に強いまち」 ➡「災害に強くだれもが安心して暮らせるまち」に修正</p>

## 第2回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年8月8日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
<p>(資料3)5ページの防災・減災の推進の見直しの方向性というところで、今、災害時に避難をどうするのが大きな課題だと思う。実際に避難を受け入れる場所があるのか、どの時点で呼びかけるのかなど、今、早い呼びかけをされているのは重々わかっているが、見直しの方向性の中に、防災・減災の中で避難というのは大きなキーワードではないかなと思うので、そこら辺も検討いただければと思う。</p>	木村委員	/	<p>基本計画 P113【VI危機管理 第3節】</p> <p>【(1)市民の役割の防災力の向上】</p> <p>ア 市民は自らの命を守ることを最優先とし、日頃からの備えやいざという時のための判断力・行動力を強化するとともに、地域での相互交流を深め、災害対応力の強化に努めます。</p> <p>イ 災害に関する正しい知識の習得、避難行動・避難経路・避難場所の確認、7日分の備蓄など個人での取組に加え、出前講座などの防災啓発活動や防災訓練への参加など、日頃からの地域とのつながりと支え合いを大切にします。</p> <p>【(2)地域の防災力の向上】</p> <p>ア 地域の自主防災クラブ、町内自治会、消防団、地域企業などは、日頃から校区防災連絡会などでの活動を通し、地域コミュニティの維持・発展に取り組み、いざという時に互いに支え合う地域力の強化に努めます。</p> <p>イ 自主防災クラブなどによる地域主導の防災訓練、地域版ハザードマップの作成、地域の担い手の育成などに取り組みます。</p>
<p>(資料3)19ページの交流人口のところだが、総合戦略等の国の指針の中で、新たに関係人口というカテゴリー出てきている。定住人口と交流人口の間の「関係人口」というカテゴリーも含めた検討が必要。</p>	鈴木副委員長	/	(総合戦略の中で検討)
<p>(資料3)17ページの持続可能な資源循環型社会の構築の中で、見直しの方向性として、今課題になっているプラスチックごみの削減に向けた対策に取り組むと書いてあるが、非常に評価するし、取り組まなければならないと思う。プラスチックごみは、現状では、分別等はかなりされており、焼却もされているが、対策はまだそんなに進んでいないと思う。何か具体的に考えられていることはあるのか。</p>	木村委員	<p>プラスチックごみの現状は、容器包装プラを分別収集し、製品プラは焼却処分している。</p> <p>このような中、世界的にプラスチックごみが問題視され、国でも戦略が出され、市長公約を踏まえ、12月からプロジェクトチームを作り、他都市調査や熊本市の現状を調べている。国の政策を踏まえ模索している段階である。</p>	<p>基本計画 P68【第5章第3節(5)】</p> <p>ア ワンウェイ(使い捨て)プラスチックの発生抑制(リデュース)に向け、市民のライフスタイルの変革につながる取組の促進を図ります。</p> <p>イ プラスチック再生材やバイオプラスチックなどのプラスチック代替素材の機能性などの動向を把握しつつ、化石燃料由来プラスチックからの転換を図ります。</p> <p>基本計画 P68【第5章第3節(6)】</p> <p>ア マイクロプラスチック問題に関する正確な情報の収集に努めるとともに、国や研究機関などの動向にも注視しつつ、江津湖などの公共用水域における自然環境への影響について調査し、その対策を検討します。</p> <p>イ 自然環境へのプラスチックの流出抑制に向けて、市民のプラスチック問題に関する意識啓発やポイ捨て・不法投棄対策に取り組むとともに、美化・清掃活動の更なる推進を図ります。</p>

## 第2回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年8月8日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
<p>(資料3)9ページ、高齢者、障がいのある人などが豊かに暮らせるという関係で、2番目が高齢者、3番目が障がいのある人ということで基本方針を立ててあるが、地域包括支援システムには障がい児も入るので、この関係を少し考えていただけたらいい。障がいのある人の自立支援というところでは、就労支援というのが今とても力を入れているので、安心して生活を営み社会参加できる環境づくりに一言入れていただくといい。見直しの方向性として、高齢者の権利擁護や児童虐待防止に向けてということで、成年後見等も高齢者も障がい者も全て行っているの、ここに高齢者・障がい者の権利擁護と入れていただきたい。</p>	相藤委員	/	<p>基本計画P41【第3章第3節(2)】 イ 高齢者の尊厳を守り、住み慣れた地域で暮らせるよう、認知症に対する理解の浸透や成年後見人制度の利用促進を図るなど、高齢者の権利擁護を推進し、虐待防止に取り組みます。</p> <p>基本計画P42【第3章第3節(5)】 イ 障がいのある人の権利を擁護するため、成年後見人制度の利用促進及び虐待防止に取り組みます。</p> <p>基本計画P42【第3章第3節(6)】 ア 障がいのある人が地域で安心して生活できるように、関係機関・団体などとの連携を強化し、障がいの特性に応じた相談支援体制の充実を図るとともに、円滑な障害福祉サービスなどの提供に努めます。 オ 障がいのある人の雇用に関する企業意識の高揚を図り、就労機会の拡大と職場環境の整備を促進します。</p>
<p>(資料3)11ページの見直しの方向性として児童虐待防止、子どもの貧困対策があるが、非常に今、性的被害も深刻化しているので、そちらのほうを見直しの方向性につけ加えていただければと思う。</p> <p>(資料3)27ページの洪水関係だが、河川整備は上の2番の都市型洪水、都市型水害につながるが、道路の冠水が非常に多くて、車の水没もある。排水も浸水対策の推進のところでされていると思うが、さらなる強化が必要ではないか。</p>	松島委員	/	<p>基本計画P48【第3章第5節(7)】 ア 児童虐待の発生予防や早期発見のため、より専門性の高い相談体制を構築し、児童や保護者への支援を強化します。</p> <p>基本計画P98【第8章第5節(1)】 ウ 洪水時の逃げ遅れによる人的被害を防ぐため、国県などの関係機関と連携し、河川情報の発信を強化します。</p> <p>基本計画P98【第8章第5節(3)】 ア 浸水頻度や被害の大きさなどを踏まえ、選定した「浸水対策重点地区(6地区)」の被害軽減に向けて、排水機場や排水路などの浸水対策施設の整備を推進します。 イ 浸水対策施設が十分に機能を発揮するように、排水機場の運転管理及び排水路の断面確保など、施設の適正な維持管理を行います。 ウ 住民の迅速かつ安全な避難行動に結びつくよう地域住民などと連携し、浸水実績などの情報発信を強化します。</p>

## 第2回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年8月8日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
<p>(資料3)23ページの「計画的な都市づくり」、次ページの「魅力と活力のある中心市街地の創造」の中で、今、議論になっている熊本市役所の建替えをどういう形でやっていくかは、この先のことを考えた場合、例えば18ページの「地域経済の発展」では、「桜町地区やJR熊本駅周辺の再開発等の復興の先の地域経済を支える対策に取り組む」と記載があるが、市役所建替えとここで言うところの「地域経済の発展」とは、当然関連してくる。</p> <p>(資料3)14ページに書かれている「文化の振興と継承」に、千葉城地区の話が書いてあるが、エリア的にもこの取り組みは、影響を与えるコアな取り組みだと思があるので、それを今回の方向性の中でどう位置づけて書いていくか、いろいろ議論はあると思うが、整理できるのであれば、何らかの方向性を、この先見据えたときには必要ではないか。</p>	中村委員	<p>ご指摘のとおりだが、現時点では、市議会に特別委員会が設置され、市役所を建て替えるかどうか議論中であるため、その議論の方向性をきちっと見極められた段階で、まちなかの都市の再生というところで、後期計画の中で位置づけたい。</p>	(市議会の特別委員会での議論を踏まえ検討)
<p>SDGsのところ「持続可能なまちづくり」というのは、何にとって持続可能なのかというのを、市民にとって、わかりやすい言葉が重要だと思う。</p> <p>これから具体的な基本計画やアクションプランが出てきて、わかりやすくなっていくという見方もあるが、持続可能性とか、グローバルな視点を持ちながら国際社会の一員としてという文言があって、さらに、SDGs未来都市に選定されたことを考えると、もうちょっと環境とか、最大の売りである水や食の安全をアピールしていくときに、熊本の強みを大事にしながらか持続可能なまちづくりをしていくことが重要。一番押さなければならないところはどこなのか、言っておいたほうが良いのではないか。</p>	小林委員	<p>〇SDGsに関しては、まだまだ市民の中には浸透しておらず、アンケート調査の中でもSDGsという言葉を知っているという方は少数派。</p> <p>この基本理念の中で、包摂性、共生社会というイメージとダブるが、そういう理念が「上質な生活都市」としての理念に一致して、これをベースに施策をやっていくということを書いているので、もう少しわかりやすく、本市が目指すSDGsはこういうことだということでも表現をやり直したい。</p>	
<p>SDGsの関係の書き方を、ある意味ばくつとした分野別の目標と、17のSDGsの目標の関係を書くと、いろんな事が関係していますよということしか書けなくて、何か情報として意味あるものになっているのかなというのが疑問。</p> <p>普通の自治体だったら、これでもいいかもしれないが、SDGs未来都市なので、他の自治体にも模範となるような打ち出し方が今後は望ましい。SDGsの17ゴールも幾つかカテゴリーに分かれていて、より熊本市の事業も細かく分けて、細かい対応ができたりするのかなという気もしている。</p> <p>その対応表を書くことにエネルギーを割くことにどれだけ意味があるのか疑問があるが、少しご検討いただければと思う。</p>	円山委員	<p>〇SDGsの対応表を書くことに対しては、それぞれの分野でSDGsの17ゴールと、自分たちの施策が関係することをまず担当課が認識するためにこれをやっている。今後、どのように的確に反映して、具体的に表現していくかは、委員の皆様からのご意見も承りながら検討する。</p>	<p>基本計画P129【Ⅷ 第8節】 「SDGs未来都市」として、自治体SDGsモデル事業をはじめ他の自治体の普及展開につながる先導的な事業を推進し、SDGsの認知度向上へ向けた広報や啓発活動などについて節(施策)を新たに設けた。</p> <p>基本計画-全般 基本構想に掲げる「上質な生活都市」の実現はもとより、SDGsの実現にも意識して取り組むため、基本計画の章(分野別施策)ごとに関連するSDGsのロゴマークを追記。</p>
<p>SDGs未来都市に選定され、他の都市よりも大きく持続可能なまちづくりを推進していくということでは、この計画の中にもしっかりと盛り込んであり、大きな動きとして良かったと思う。読んでみると、やっぱりSDGsは難しい言葉で、私たちが英文で書くときも、わりやすく書くというのが悩ましい。この中でも、グローバルな視点を持ち、誰一人取り残されない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指していることは非常にわかりやすいが、あらゆる施策においてということでも最後の方にまとめてあるが、これを読んだときに、一般市民がもう少しわかるように、世界的に、地球温暖化の防止とか脱炭素社会も世界潮流となっており、SDGsの中でもより明確に国連として目指しているものが幾つかある。熊本としても取り組むべきことがあると思うので、もう少し持続可能なまちづくりのところを市民にわかりやすく、もう少し厚くできないか。</p>	木村委員		

## 第2回 熊本市第7次総合計画中間見直し委員会 意見への対応表

日時：令和元年8月8日（木）13時30分～

意見概要	委員	当日回答	総合計画における具体的な記載内容
市の職員の方もこれを見ながら、SDGsゴールとは、一体どういうものかというの がわかっていたらいいということ、それが市民の方々へ伝播していけばと思う。	中山委員長		
SDGsはすごく気になっている。私は専門がエコツーリズムなので、そういうところ からリンクすることがあり、やたらSDGsが最近出てきて、もちろん、今おっしゃ ったような内向きの目的もあると思うが、最終的に熊本のSDGsは、やっぱり「上質 な生活都市」というゴールがあるので、それとどうリンクし達成することが、「上質 な生活都市」になるということがわかりやすく、具体的ににならないと、市民にとつてもS DGsは漠然な話になってしまう。	小林委員	同上	同上
(資料3)7ページの見直しの方向性として、今回「新たな健康ポイント事業を柱に 据え」ということだが、まだよくわからないところがある。このあたりは市民にも余り 理解されていないところが多いかと思うが、ご説明をお願いします。	宮村委員	健康ポイントは、健診の受診率もかなり低い状 況なので、気軽に楽しみながら、市民の健康行 動を継続していけるような取り組みができればいい ということに取り組んでいる。 現時点では、1点目が健診ポイントで、特定健 診やがん検診を受診することによってインセン ティブを与えるもの、2点目がウォーキングなど 毎日のポイントと。3点目がお出かけポイントと いうことで、健康に関するイベントに積極的に参 加いただいて、健康行動を維持、向上いただけ ることを目指している。  まずは、健康でインセンティブを付与し、将来 的にはマイナンバーとか、自治体ポイントがある ので、そういうのも連携して、例えば交通の共通 (IC)カードに転換できないかとか、日常的なコン ビニの買い物でも活用できないかも含めて考え たい。	基本計画P35【第3章第1節(1)】 イ「健康ポイント事業」などを行い、市民自らが進んで健康増進を図れる環境 づくりに取り組みます。
(資料3)19ページの交流人口の増加について、見直しの方向性として、交流人 口の増加に向け、国内外観光客のニーズ分析やキャッシュレス等の環境整備に より観光客誘致体制を強化するとあるが、その中で、無料Wi-Fi設備、熊本は東 京とか福岡とか大都市に比べたら、今、施設整備が進められていると思うが、まだ まだ不足しているところがある。日本に来られる外国人は、携帯を使って情報を得 られたほうが、よりよい時間を過ごせることにつながるの、さらに推進していただ けたら。	吉本委員	/	基本計画P76【第6章第2節(2)】 イ 観光案内所の充実や、多言語対応、トイレの洋式化、キャッシュレス化、無 料Wi-Fi環境などの整備に取り組みます。
(資料3)19ページの「交流人口の増加」のところ、(4)にぎわいの創出があり、 基本構想の13ページに、訪れてみたいまちづくりで、「伝統文化とエンターテイ メントが共鳴するにぎわいを生み出します」とある。このエンターテイメントという言葉 が、非常に大事であり、伝統文化もそうだが、こういった要素は、都市機能の重要 な要素ではないか。この人口の増加にとどまらず、熊本の魅力としての都市機能 が充実しているというのが、一番最初に書いてあるように、その中でも、医療機 関、高等教育機関、商業施設が高度に集積し、都市機能が充実しているという ことが、今後、文化やエンターテイメントを伸ばしていくことが必要。そういうこと でにぎわいを生み出しますと構想に書いてあるので、基本計画のほうにも、エンター テイメントという言葉を出されると、にぎわっている感じがする。	坂本委員	/	基本計画P58【第4章第3節(1)】 ウ 市民会館や現代美術館などの文化施設及び熊本城ホールにおいて、魅力 あるコンサートや企画展、講演会などを開催し、文化芸術の発信基地と位置づ けた管理運営を行います。  基本計画P76【第6章第2節(3)】 ア 中心市街地や水前寺江津湖一帯の魅力向上のため、花火大会などのイベ ントの開催を通じたにぎわいの創出を図ります。